

# みずほマーケット・トピック (2018年6月22日)

## 週末版

内容 1. 為替相場の動向 2. 来週の注目材料

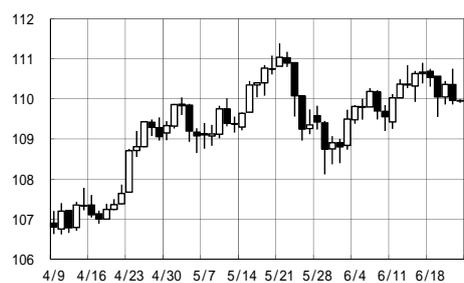
誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向 (関連レポート: 「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)
- 今週のドル/円相場は上下に激しい値動きとなった。週初 18 日に 110 円台後半でオープンしたドル/円は、米中の追加関税による貿易摩擦懸念の高まりや大阪北部で発生した地震を背景としたリスクオフの円買いが進み 110 円台前半まで下落。19 日にはトランプ米大統領が 2,000 億ドル相当の中国製品に 10% の追加関税を検討と報じられると、米中貿易摩擦が激化するとの警戒感から一時週安値となる 109.55 円まで急落した。しかし、ナバロ米通商製造政策局長の「トランプ大統領は引き続き中国と協議する意思はある」との電話会見を受けドル/円は 110 円近辺まで買い戻された。20 日は「中国が米国の追加関税に対し強力な対抗策を用意」と伝わると 110 円を割り込む場面も見られたが、シントラで開催中の ECB フォーラムでの講演でパウエル FRB 理事が「斬新的な利上げを継続する論拠は強い」と述べると 110 円台を回復。米金利がじりじりと上昇する中、ドル/円は 200 日移動平均線付近となる 110.25 円を上抜けると 110 円台半ばまで値を伸ばした。21 日には前日の流れを引き継いだほか、日経平均株価が上昇する中で一時週高値となる 110.76 円をつけた。だが、米 6 月フィラデルフィア連銀景況指数が大幅に低下したことからドルの利益確定売りが持ち込まれたことなどから 109 円台後半まで反落した。本日のドル/円は上値重いながら 110 円台を回復する動きがみられている。
  - 今週のユーロ/ドル相場はもみ合う展開。週初 18 日に 1.16 台前半でオープンしたユーロ/ドルは、ドイツ連立政権が移民・難民問題を巡り対立と報じられたことや、ECB が来年にかけて金利を据え置くとの見方を背景に 1.15 台半ばまで下落したが、この水準では買い意欲もあり 1.16 台前半まで反発。19 日には一時週高値となる 1.1644 をつけたが、ECB フォーラムでドラギ ECB 総裁が利上げに慎重な姿勢を示すとユーロ売りが進み 1.15 台前半まで急落した。その後は 1.15 台後半まで回復したが、20 日はノボトニー ECB 理事が「欧米金利差から対ドルでユーロは下落する展開になっている」と発言すると再度 1.15 台前半まで値を下げた。しかし、この水準では底堅く 1.16 近辺まで反発したものの、21 日はイタリア議会上下院の財政委員会にいずれもユーロ懐疑派の議員が指名されたことを受けて一時週安値となる 1.1508 をつけた。その後、イタリア財務相がユーロへのコミットメントを改めて示すと 1.16 台まで買い戻され、本日のユーロ/ドルは 1.16 近辺で推移している。

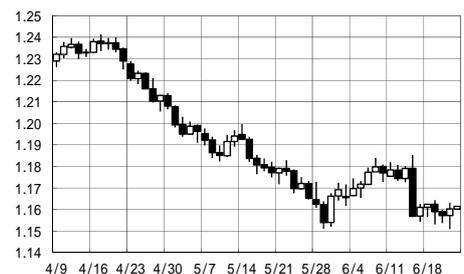
今週のおもな金融市場動向 (出所: ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		6/15(Fri)	6/18(Mon)	6/19(Tue)	6/20(Wed)	6/21(Thu)
ドル/円	東京9:00	110.64	110.64	110.16	110.09	110.38
	High	110.90	110.67	110.58	110.45	110.76
	Low	110.39	110.30	109.55	109.85	109.84
	NY 17:00	110.64	110.54	110.05	110.36	109.96
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1563	1.1593	1.1630	1.1589	1.1578
	High	1.1627	1.1624	1.1644	1.1600	1.1633
	Low	1.1543	1.1566	1.1531	1.1537	1.1508
	NY 17:00	1.1610	1.1624	1.1590	1.1573	1.1603
ユーロ/円	東京9:00	127.94	128.26	128.13	127.57	127.74
	High	128.51	128.50	128.51	127.93	128.04
	Low	127.72	127.82	126.68	127.10	127.00
	NY 17:00	128.46	128.49	127.60	127.77	127.67
日経平均株価		22,851.75	22,680.33	22,278.48	22,555.43	22,693.04
TOPIX		1,789.04	1,771.43	1,743.92	1,752.75	1,750.63
NYダウ工業株30種平均		25,090.48	24,987.47	24,700.21	24,657.80	24,461.70
NASDAQ		7,746.38	7,747.03	7,725.59	7,781.52	7,712.95
日本10年債		0.04%	0.04%	0.03%	0.04%	0.04%
米国10年債		2.92%	2.92%	2.90%	2.94%	2.90%
原油価格(WTI)		64.85	65.69	64.90	65.71	65.54
金(NY)		1,279.55	1,278.31	1,274.70	1,267.79	1,267.20

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



## 2. 来週の注目材料

- ・来週、米国では25日(月)に5月新築住宅販売件数の発表がある。4月は年率66.2万件と3月(67.2万件)から減少した。やや長い目でみると、2017年10～12月期と2018年1～3月期は年率65.5万件で横ばいとなった。10～12月期の住宅販売は大型ハリケーン後の需要によって一時的に押し上げられていたことを考慮すると、1～3月期の実績は堅調であったことを示唆している。4月の住宅販売も1～3月期平均を上回るなど堅調な販売が続いており、5月は前月比+0.5%の年率+66.5万件と予測されている。もっとも、需要の一部は住宅ローン金利が上昇する中、一段の金利上昇を前に「駆け込み需要」が生じている可能性には留意が必要だろう。翌26日(火)には6月コンファレンス・ボード消費者信頼感指数の発表があり、前月の128.0から127.5へ低下する見込みだ。既に発表されている6月ミシガン大学消費者マインド(速報)は99.3と前月の98.0から上昇しており、雇用環境の改善や株価の持ち直しなどが押し上げに寄与しているとみられる。金融政策関連では、26日(火)にボスティック・アトランタ連銀総裁とカプラン・ダラス連銀総裁、27日(水)にはローゼングレン・ボストン連銀総裁、28日(木)にはブロード・セントルイス連銀総裁が講演を行う予定である。
- ・本邦では、29日(金)に5月鉱工業生産(速報)が発表される。4月の生産は前月比+0.5%(3月:同+1.4%)と3か月連続で増加し、1月の大幅減産から持ち直しが続いている。もっとも、製造工業生産予測調査をみると、5月は前月比+0.3%と4か月連続の増産が計画されているものの、6月は同-0.8%と減産が見込まれている。また、1か月先の予測指数には上振れバイアスがあり、経済産業省が補正した試算値では、5月は同+1.3%と減産になる見通しである。生産に関連する統計を確認すると、企業マインド指標は前月から改善、水準としても引き続き高めで推移しているが、5月の実質輸出は前月比-3.8%(4月:同+5.2%)と減少しており、こうした中、市場では5月の鉱工業生産指数は前月比-1.1%と予想されている。

	本 邦	海 外
6月22日(金)		・石油輸出機構(OPEC)総会 ・ユーロ圏6月製造業/サービス業PMI(速報) ・ユーロ圏財務省会合(ルクセンブルク)
25日(月)		・独6月IFO企業景況指数 ・米5月シカゴ連銀全米活動指数 ・米5月新築住宅販売
26日(火)	・5月企業向けサービス価格	・米4月S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格 ・米6月消費者信頼感指数
27日(水)		・米5月耐久財受注(速報)
28日(木)		・米1～3月期GDP(3次速報) ・EU首脳会議(ブリュッセル)
29日(金)	・5月労働力調査 ・6月東京都都区部消費者物価 ・5月鉱工業生産(速報) ・5月新設住宅着工	・ユーロ圏6月消費者物価(速報) ・米5月個人所得・支出 ・米6月ミシガン大学消費者マインド(確報) ・米6月シカゴ購買部協会景気指数

### 【当面の主要行事日程(2018年7月～)】

米FOMC(7月31日～8月1日、9月25～26日、11月7～8日)

ECB政策理事会(7月26日、9月13日、10月25日)

日銀金融政策決定会合(7月30～31日、9月18～19日、10月30～31日)

国際為替部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)

[daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp](mailto:daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

経済指標カレンダー(2018年6月)

月	火	水	木	金	週末
				1 日本 自動車販売台数(5月) ユーロ圏 製造業PMI(確報、5月) 米国 雇用統計(5月) 米国 失業率(5月) 米国 建設支出(4月) 米国 ISM製造業景気指数(5月)	
4 日本 マネタリーベース(5月) 米国 耐久財受注(確報、4月) 米国 製造業受注(確報、4月)	5 ユーロ圏 サービス業PMI(確報、5月)	6 日本 毎月勤労統計(4月) 米国 貿易収支(4月)	7 日本 景気動向指数(速報、4月) ドイツ 製造業受注(4月) ユーロ圏 GDP(確報、1-3月期) 米国 消費者信用残高(4月)	8 日本 国際収支(4月) 日本 GDP(確報、1-3月期) 日本 貸出・預金動向(5月) 日本 景気ウォッチャー調査(5月) ドイツ 貿易収支(4月) ドイツ 鉱工業生産(4月) 米国 卸売売上高(4月)  シャルルボワ(カナダ) G7首脳会議(-9日)	
11 日本 マネーストック(5月)	12 日本 国内企業物価(5月) 日本 第二次産業活動指数(4月) 米国 財政収支(5月) 米国 消費者物価(5月) 米国 FOMC(-13日)	13 ユーロ圏 鉱工業生産(4月) 米国 生産者物価(5月)	14 日本 金融政策決定会合(-15日) 日本 鉱工業生産(確報、4月) ユーロ圏 ECB理事会(ラトビア・リガ) 米国 小売売上高(5月) 米国 企業在庫(4月)	15 ユーロ圏 貿易収支(4月) ユーロ圏 消費者物価指数(確報、5月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(6月) 米国 鉱工業生産(5月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、6月) 米国 TICレポート(対外対内証券投資)(4月)	
18 日本 貿易収支(5月)	19 ユーロ圏 経常収支(4月) 米国 住宅着工(5月)	20 米国 中古住宅販売(5月)	21 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(6月) 米国 景気先行指数(5月)	22 日本 全国消費者物価(5月) ユーロ圏 製造業PMI(速報、6月) ユーロ圏 サービス業PMI(速報、6月) ユーロ圏 財務相会合(ルクセンブルク)	
25 ドイツ IFO企業景況指数(6月) 米国 シカゴ連銀全米活動指数(5月) 米国 新築住宅販売(5月)	26 日本 企業向けサービス価格(5月) 米国 S&Pコアロジックケース・シャー住宅価格(4月) 米国 消費者信頼感指数(6月)	27 米国 耐久財受注(速報、5月)	28 米国 GDP(3次速報、1-3月期) 米国 個人消費(3次速報、1-3月期) 米国 PCEコアデフレーター(3次速報、1-3月期)	29 日本 失業率(5月) 日本 東京都区部消費者物価(6月) 日本 鉱工業生産(速報、5月) 日本 新設住宅着工(5月) ユーロ圏 消費者物価指数(速報、6月) 米国 個人消費・所得(5月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、6月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(6月)	

[注]\*を付したものは公表予定が未定であることを示す。  
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー(2018年7月)

月	火	水	木	金	週末
<p>2</p> <p>日本 日銀短観(4-6月期)</p> <p>日本 自動車販売台数(6月)</p> <p>ユーロ圏 製造業PMI(確報、6月)</p> <p>ユーロ圏 失業率(5月)</p> <p>米国 建設支出(5月)</p> <p>米国 ISM製造業景気指数(6月)</p>	<p>3</p> <p>日本 マネタリーベース(6月)</p> <p>米国 耐久財受注(確報、5月)</p> <p>米国 製造業受注(確報、5月)</p>	<p>4</p> <p>ユーロ圏 サービス業PMI(確報、6月)</p>	<p>5</p> <p>ドイツ 製造業受注(5月)</p> <p>米国 ADP雇用統計(6月)</p> <p>米国 FOMC議事要旨(6月12-13日開催分)</p>	<p>6</p> <p>日本 毎月勤労統計(5月)</p> <p>日本 景気動向指数(速報、5月)</p> <p>ドイツ 鉱工業生産(5月)</p> <p>米国 雇用統計(6月)</p> <p>米国 貿易収支(5月)</p> <p>米国 失業率(6月)</p>	
<p>9</p> <p>日本 国際収支(5月)</p> <p>日本 貸出・預金動向(6月)</p> <p>日本 景気ウォッチャー調査(6月)</p> <p>ドイツ 貿易収支(5月)</p> <p>米国 消費者信用残高(5月)</p>	<p>10</p> <p>日本 マネーストック(6月)</p>	<p>11</p> <p>日本 国内企業物価(6月)</p> <p>日本 第三次産業活動指数(5月)</p> <p>米国 生産者物価(6月)</p> <p>米国 卸売売上高(5月)</p>	<p>12</p> <p>ユーロ圏 鉱工業生産(5月)</p> <p>米国 財政収支(6月)</p> <p>米国 消費者物価(6月)</p>	<p>13</p> <p>日本 鉱工業生産(確報、5月)</p> <p>米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、7月)</p>	
<p>16</p> <p>日本 海の日</p> <p>ユーロ圏 貿易収支(5月)</p> <p>米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(7月)</p> <p>米国 小売売上高(6月)</p> <p>米国 企業在庫(5月)</p>	<p>17</p> <p>米国 鉱工業生産(6月)</p> <p>米国 TICレポート(対外対内証券投資)(5月)</p>	<p>18</p> <p>ユーロ圏 消費者物価指数(確報、6月)</p> <p>米国 住宅着工(6月)</p> <p>米国 ページュブック</p>	<p>19</p> <p>日本 貿易収支(6月)</p> <p>米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(7月)</p> <p>米国 景気先行指数(6月)</p>	<p>20</p> <p>日本 全国消費者物価(6月)</p> <p>ユーロ圏 経常収支(5月)</p>	<p>21-22</p> <p>ブエノスアイレス(アルゼンチン)</p> <p>G20財務相・中央銀行総裁会合</p>
<p>23</p> <p>米国 シカゴ連銀全米活動指数(6月)</p> <p>米国 中古住宅販売(6月)</p>	<p>24</p> <p>日本 景気動向指数(確報、5月)</p> <p>ユーロ圏 製造業PMI(速報、7月)</p> <p>ユーロ圏 サービス業PMI(速報、7月)</p>	<p>25</p> <p>ドイツ IFO企業景況指数(7月)</p> <p>米国 新築住宅販売(6月)</p>	<p>26</p> <p>日本 企業向けサービス価格(6月)</p> <p>ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト)</p> <p>米国 耐久財受注(速報、6月)</p> <p>米国 製造業受注(速報、6月)</p>	<p>27</p> <p>日本 東京都部消費者物価(7月)</p> <p>米国 GDP(1次速報、4-6月期)</p> <p>米国 個人消費(1次速報、4-6月期)</p> <p>米国 PCEコアデフレーター(1次速報、4-6月期)</p> <p>米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、7月)</p>	
<p>30</p> <p>日本 金融政策決定会合(-31日)</p>	<p>31</p> <p>日本 失業率(6月)</p> <p>日本 鉱工業生産(速報、6月)</p> <p>日本 新設住宅着工(6月)</p> <p>ユーロ圏 失業率(6月)</p> <p>ユーロ圏 消費者物価指数(速報、7月)</p> <p>ユーロ圏 GDP(速報、4-6月期)</p> <p>米国 雇用コスト(4-6月期)</p> <p>米国 個人消費・所得(6月)</p> <p>米国 S&amp;Pコアロジックケース・シラー住宅価格(5月)</p> <p>米国 消費者信頼感指数(7月)</p> <p>米国 シカゴ購買部協会景気指数(7月)</p> <p>米国 FOMC(31-8月1日)</p>				

[注]\*を付したものは公表予定が未定であることを示す。  
 (資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です  
<http://www.mizuhoobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) [http://www.mizuhoobank.co.jp/forex/econ\\_backnumber.html](http://www.mizuhoobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html)

発行年月日	過去6か月のタイトル
2018年6月21日	ユーロ圏共通予算を阻むメルケル政権の危機
2018年6月20日	「ユーロ危機2.0」への警告～米国とイタリアの挟撃～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年4月分)
2018年6月19日	改めて整理する「中立金利との距離感」～分水嶺～
2018年6月15日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「APP」はタカ派、「利上げはハト派」の折衷案～)
2018年6月14日	FOMCを終えて～「後ろめたさ」を抱きつつの運営に～
2018年6月13日	米朝首脳会談～市場の関心は「非核化完了」or「協議決裂」～
2018年6月12日	アベノミクス高値「125.86円」から3周年
2018年6月11日	FOMCプレビュー～テーマは「中立金利との距離感」～
2018年6月8日	週末版(外国人労働者の受け入れ拡大について～成長を望むなら～)
2018年6月7日	主要な景気先行指標の現状～世界経済の失速は露わに～
2018年6月6日	ECB政策理事会プレビュー～イタリア危機を越えて～
2018年6月5日	イタリア危機は去ったのか？～このままでは済まず～
2018年6月4日	鮮明になった「G6+1」の構図
2018年6月1日	週末版(イタリア、スペイン懸念は波及するのか～イタリア発スペイン経由南米行き？～)
2018年5月30日	17年末の本邦対外資産・負債状況～安全通貨「円」の本領～
2018年5月29日	続・イタリア政局の現状と展望～ECBが被る誤算～
2018年5月25日	週末版
2018年5月23日	イタリア政局の現状と展望～論点整理～
2018年5月22日	「双子の赤字」と整合的なドル安予想
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年4月分)
2018年5月21日	上がらない米インフレ期待から何を讀むべきか？
2018年5月18日	週末版(続・米金利上昇の余波を受ける新興国について～金融市場は「我慢比べ」の段階に～)
2018年5月17日	軟化するユーロ相場と展望について
2018年5月16日	次期NY連銀総裁の考える中立金利の在り方について
2018年5月15日	APPの総括と今後の展望～仏中銀総裁講演を受けて～
2018年5月14日	米金利上昇の「負の側面」～家計・企業・海外～
2018年5月11日	週末版
2018年5月10日	最近のユーロ圏経済の失速について
2018年5月9日	海外企業買収と円相場について
2018年5月8日	米金利上昇の余波を受ける新興国について
2018年5月2日	メインシナリオへのリスク点検～通商政策リスクは顕在～
2018年5月1日	日銀金融政策決定会合～市場は「誤解」してきたのか？～
2018年4月27日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利上げはユーロ高との戦いに～)
2018年4月26日	米10年金利「3%」をどう解釈するか
2018年4月25日	日銀金融政策決定会合プレビュー～微修正の決断はまだ先～
2018年4月24日	ECB政策理事会プレビュー～重要決定前の露払い～
2018年4月23日	節目を迎える投機ポジション～短期目線に振られるべからず～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年3月分)
2018年4月20日	週末版(日米首脳会談を終えて～「古くて新しい問題」とライトハイザー対策～)
2018年4月18日	IMF世界経済見直しを受けて～強まった警戒色～
2018年4月17日	日米首脳会談プレビュー～見るべきポイント～
2018年4月16日	為替政策報告書の正しい読み方～論点の整理～
2018年4月13日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～明確なユーロ高懸念～)
2018年4月12日	続・残業代規制の影響～閣議決定を受けて～
2018年4月11日	ユーロ/ドル相場の値動き分析～金利差の観点から～
2018年4月10日	為替政策報告書プレビュー～中長期的に咀嚼すべき～
2018年4月9日	円相場の基礎的需給環境～米金利上昇に頼れず～
2018年4月6日	週末版(保護主義とドル安の関係性～日本に求められる交渉戦略～)
2018年4月5日	ドイツに非はないのか～貿易戦争で考える立ち位置～
2018年4月4日	想定が替レートと実勢相場の関係について
2018年4月3日	クラウディング・アウトとLIBOR-OISスプレッド～新たな懸念～
2018年4月2日	外貨準備構成通貨の現状(17年12月末)～第二次多様化～
2018年3月30日	週末版(日米金利差「3%」はトリガーなのか～3つの注意点～)
2018年3月27日	ユーロ圏経済は本当に磐石なのか？
2018年3月26日	メインシナリオへのリスク点検～安直な円安予想の終わり～
2018年3月23日	週末版(FOMCを終えて～名実共に「引き締め」局面へ～)
2018年3月20日	ECBは来年、利上げするのか？～関係筋発言を受けて～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年2月分)
2018年3月16日	週末版(実質実効為替相場で見ると各国通貨の現状～気まずい「円」の立ち位置～)
2018年3月15日	第4次メルケル政権発足を迎えて～ポスト・メルケル時代～
2018年3月13日	ドイツバブルを警戒すべきか？
2018年3月12日	経験則からイメージするドル/円相場の「波」
2018年3月9日	週末版(ECB政策理事会を終えて～現状追認とポスト・ドラギの胎動～)
2018年3月8日	通貨安競争でドルに勝てる者なし～標的になりやすい円～
2018年3月7日	ECB政策理事会プレビュー～APP「規模」拡大を排除か？～
2018年3月6日	「製造業の採算レートを」から何を讀み取るか？
2018年3月5日	黒田総裁発言を受けて～今だから出来るチャレンジ～
2018年3月2日	週末版(四面楚歌のドル/円相場～円高見通しの確度は高まるばかり～)
2018年2月27日	メインシナリオへのリスク点検～円高リスクとしての米金利上昇～
2018年2月26日	ECB役員会人事の読み方～今後への含意など～
2018年2月23日	週末版
2018年2月22日	FOMC議事要旨(1月30～31日開催分)～試される胆力～
2018年2月21日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年1月分)
2018年2月20日	2017年の対米証券投資(TICレポート)について
2018年2月19日	スタグフレーション懸念という誤解～最近の相場動向について～
2018年2月16日	週末版(本当にブレグジットは大丈夫なのか？～不穏な「第二段階」のスタート～)
2018年2月15日	ドル/円相場の水準感～円高はまだ始まったばかり～
2018年2月14日	2017年の基礎的需給環境～4年ぶりの円買い超過に～
2018年2月13日	黒田総裁続投について～「戦術」よりも「戦略」の修正を～
2018年2月9日	週末版
2018年2月6日	やはり正しかったカーブのフラット化が示した不安な未来
2018年2月5日	浮き彫りになった円安見通しの「決定的に駄目な部分」
2018年2月2日	週末版(遂に到達した「利上げの終点」～米金利は頭打ちか、それとも続伸か～)
2018年2月1日	FOMCを受けて～パウエル新体制を待つ「茨の道」～
2018年1月30日	メインシナリオへのリスク点検～危うい米通貨・通商政策～
2018年1月29日	ECB政策理事会の読み方～通貨高けん制が効かない理由～
2018年1月26日	週末版
2018年1月24日	日銀金融政策決定会合を受けて～消化試合の様相～
2018年1月23日	IMF世界経済見直し修正を受けて～米国一本足打法～
2018年1月22日	トランプ誕生1年を振り返る～「カーブフラット化と株価急騰」～